

PRESS RELEASE

2017 / 6 / 23

遠藤利克展—聖性の考古学

ENDO Toshikatsu

The Archaeology of the Sacred

2017年7月15日（土）—8月31日（木）

埼玉県立近代美術館

遠藤利克（1950—）は現代の日本を代表する彫刻家です。1960年代から70年代にかけて芸術の原理をラディカルに問い直したミニマリズムや「もの派」の洗礼を受けながらも、それらの地平を越えることを課題として、遠藤は1980年代の現代美術シーンに関わってきます。美術における物語性の復権を掲げた遠藤の作品では、舟や桶、^{ひつぎ} 柩などのモチーフが古^{いにしえ}の文化や神話的な物語を喚起する一方、水や火などのプリミティブな要素が、人間の生命の根源にあるエロス（生の衝動）とタナトス（死の衝動）を呼び覚まします。作品の圧倒的なスケールは身体感覚にダイレクトに働きかけ、畏怖と恍惚が、そして生と死が一体となった、より高次元の感覚へと観る者を導いていきます。それは遠藤にとって、芸術を通じて「聖なるもの」に近づくことなのです。

ドクメンタやヴェネツィア・ビエンナーレにも出品、北欧と英国で巡回展を行うなど、遠藤利克は国際的にも極めて評価が高い彫刻家です。本展は、26年ぶりに関東の美術館で開催される大規模な個展となります。2010年代に制作された作品を中心に展示構成する本展では、「聖性」と「考古学」をキーワードに遠藤利克の^{いま}現在と本質に迫ります。

主な出品作品

《泉》	1991年	φ95×1926cm	東京都現代美術館蔵
《Trieb—ナルチスの独房Ⅱ》	2000年	190×160×252	作家蔵
《空洞説—木の舟》	2009年	113×85×1100	作家蔵
《空洞説（ドラム状の）-2013》	2013年	240×φ458	作家蔵
《寓話Ⅴ—鉛の柩》	2016年	100×100×345	作家蔵

以上5点に加え、新作を含む計12点が出品予定

関連イベント

■スペシャル・トーク「アートにおける物語性について」

遠藤利克（彫刻家）×森啓輔（ヴァンジ彫刻庭園美術館学芸員）×建畠哲（当館館長）

1980年代、遠藤は物語性の復権を掲げて現代美術に介入します。現代美術と物語性の関係をアーティスト本人とともに読み解きます。

日時：2017年7月23日（日）13:30～16:30（開場 13:00）

場所：講堂（2階）／定員：80名（当日先着順）／費用：無料

■映画『ストーカー』上映＋アーティスト・トーク「『空洞』の見立てとしての『ゾーン』」

アンドレイ・タルコフスキーの名作『ストーカー』（1979年／ロシア／2時間32分）の上映後、遠藤利克氏が自らの作品や思想との共鳴について語ります。

日時：2017年8月20日（日）12:30～16:00（開場：12:00）

場所：講堂（2階）／定員：80名（当日先着順）／費用：無料／※DVDによる上映

■担当学芸員によるギャラリー・トーク

7月22日（土）、8月19日（土）／各日とも15:00から30分程度／2階展示室／企画展観覧料が必要です。

■MOMAS コレクション第2期（常設展）でも遠藤利克の作品を展示します。

2017年7月22日（土）～10月1日（日）／場所：1階展示室

「遠藤利克—供犠の論理学」

ヴェネツィア・ビエンナーレ出品の代表作のひとつ《泉—9個からなる》（1989年／当館収蔵作品）を展示。遠藤利克の作品で重要な焼成のプロセスを「供犠」の論理で検証します。

「シャガールとか田中保とか」／「根岸に学ぶ—浅井忠の弟子たち」

■[スライド・トーク]ご希望のグループにスライドを使って「遠藤利克展—聖性の考古学」の見どころをご案内します（予約制）。お問い合わせ・ご予約は教育・広報担当（電話 048-824-0110）まで。

展覧会情報

1. 会期 2017年7月15日（土）～8月31日（木）
休館日：月曜日（7月17日は開館）
2. 開館時間 10時～17時30分（展示室への入場は17時まで）
3. 観覧料 一般1100円（880円）、大高生880円（710円）
（ ）内は20名以上の団体料金
※中学生以下と障害者手帳をご提示の方（付き添い1名を含む）は無料。
※併せてMOMASコレクション（1F展示室）もご覧いただけます。

4. 主催 埼玉県立近代美術館
5. 助成 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、芸術文化振興基金
6. 特別協力 加藤開発株式会社
7. 協力 JR東日本大宮支社、FM NACK 5
8. 出品点数 12点（予定）
9. 会場案内／アクセス

埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤 9-30-1
電話 048-824-0111 FAX 048-824-0118

<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

JR 京浜東北線北浦和駅西口から徒歩 3 分（北浦和公園内）。JR 東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約 35 分です。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「三井のリパーク 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります（企画展観覧で 300 円引き、MOMAS コレクション観覧で 100 円引き）。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので予めご了承ください。

※以下の画像の掲載については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@aria.ocn.ne.jp（広報担当・飯島）までお願いします。

- ・画像の掲載にあたり、本展では著作権使用許諾申請が必要ありません。
- ・画像掲載する場合、下記キャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようお願いします。

■キャプション

- ① 遠藤利克《泉》／1991年／φ95×1926cm／東京都現代美術館蔵／撮影：小椋安幸
- ② 遠藤利克《Trieb—ナルチスの独房Ⅱ》／2000年／160×252×190cm／作家蔵
／展示風景：秋山画廊／撮影：山本糾
- ③ 遠藤利克《空洞説（ドラム状の）-2013》の焼成風景／2013年／撮影：遠藤利克
- ④ 遠藤利克《空洞説（ドラム状の）-2013》／2013年／450φ×240cm／作家蔵
／展示風景：宇都宮美術館 撮影：椎木静寧
- ⑤ 遠藤利克《空洞説—木の舟》／2009年／113×85×1100cm／作家蔵
／展示風景：青森公立大学 国際芸術センター青森 撮影：山本糾
- ⑥ 遠藤利克《寓話V—鉛の柩》／2016年／350×120×100cm／作家蔵
／展示風景：秋山画廊／撮影：椎木静寧

お問い合わせ

展覧会担当：渋谷、大浦 / 広報・画像に関してのお問い合わせ：飯島

電話 048-824-0111（代表） / 048-824-0110（学芸部） Fax 048-824-0118

広報用画像



①



②



③



④



⑤



⑥